

トピックス

インフルエンザの季節

ぽかぽかと暖かい日が続くので、まだまだ冬の序盤かと思っていたら、暦の上では早くも 12 月 7 日の“大雪”を過ぎてしまいました。名古屋地方気象台のデータによると、過去 30 年間(1971-2000)の月ごとの平均気温と降水量は、12 月(6.7、36.8mm)、1 月(4.3、43.2mm)、2 月(4.7、64.1mm)、3 月(8.2、115.2mm)となっています*1。1 月が最も寒い月で、12 月は最も降水量の少ない月ということになります。寒がりの人にはつらい季節となりましたが、インフルエンザウイルスにとっては大好きな季節の到来です。愛知県ではまだインフルエンザの大きな流行はありませんが、他の地域からはすでに流行が報告されています。国立感染症研究所の感染症週報 47 週*2(11 月 15 - 21 日)によると、岡山県で発生した今シーズン最初の集団かぜから AH1 型のインフルエンザウイルスが分離され、その抗原性は今シーズンのワクチン株に類似している(つまり、ワクチンが有効)とのことです。インフルエンザワクチンをまだ接種していない人(特に高齢者や幼児、基礎疾患のある人、それに医療関係者も)に対しては、早めに接種されるよう、ご助言ください。

なお、インフルエンザに関する情報を分かりやすくまとめた「インフルエンザQ&A」(2004 年 10 月改訂版)が国立感染症研究所(感染症情報センター)のホームページに掲載されています。*3「一般向け」には、25 の Q&A、「医療従事者向け」には 40 の Q&A があり、インフルエンザの総論、臨床、ウイルス、ワクチン、疫学、予防接種法などに関する情報に加え、「鳥インフルエンザ」や「SARS」、「パンデミック(世界的大流行)」などの話題も含まれています。ちなみに、当所のホームページに掲載されている「インフルエンザ関連情報リンク集」*4からは、いろいろと役に立つ情報源に飛ぶことができますので、こちらもご利用ください。

*1 名古屋の月ごと平年値:(http://www.tokyo-jma.go.jp/home/nagoya/hp/toukei/heinenti_month.htm)

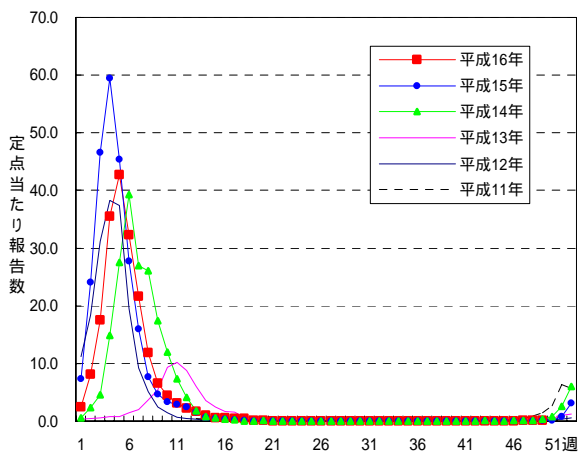
*2 国立感染症研究所第 47 週報:(<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2004-47.pdf>)

*3 インフルエンザQ&A:(<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/fluQA/index.html>)

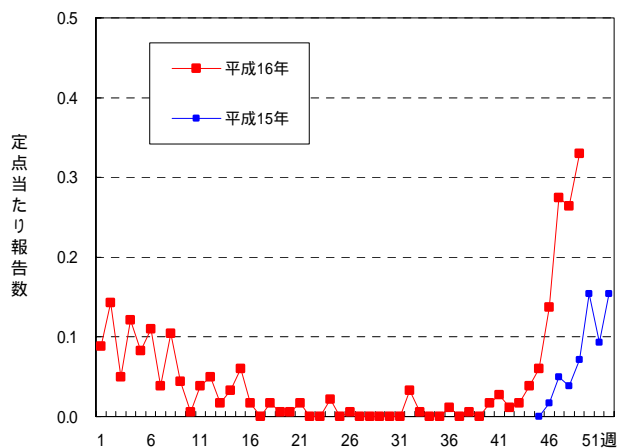
*4 インフルエンザ関連情報リンク集:(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf_links.html)

流行状況

インフルエンザ



R S ウイルス感染症



愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

感染性腸炎急増、比較的軽症、嘔吐が主、年長児にもあり、全年齢にみられる。

3歳男 サルモネラO7

【一宮市 あさのこどもクリニック】

病原性大腸菌O1 3歳女、6歳女、11歳女2名、25歳女

病原性大腸菌O6 38歳女

病原性大腸菌O18 4歳男、5歳男、22歳男

病原性大腸菌O25 39歳女

マイコプラズマ肺炎が非常に多いです。

感染性胃腸炎の多くは、ロタウイルス、アデノウイルスですが、ノロウイルスではないかと疑う症例も多くあります。

【尾西市 城後小児科】

B型インフルエンザは楽田地区一過性の流行をみたものの、その後終息した様です。

嘔吐を主訴とする胃腸炎が丸山地区で発生し、幼稚園で半数近い欠席者がでた様です(園児60人、先生6人)。発熱はありませんが、下痢はたまにあります。

12月4日、1歳児でA型インフルエンザ陽性でした。父親からの感染と思われます。

【犬山市 武内医院】

溶連菌感染症、感染性胃腸炎ともに多発しています。

流行性耳下腺炎の流行が続いています。

アデノウイルス感染症1名ありました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

ウイルス性胃腸炎、RS感染症目立ちます。

インフルエンザはまだありません。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
46歳女、20歳女、13歳男 マイコプラズマの家族内感染です。

嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが未だ多いようです。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

ロタを含むウイルス性胃腸炎が多い。

病原大腸菌O17 7歳男

RSウイルス感染症、クループ症候群も多い。

アデノウイルス感染症、肺炎を含めたマイコプラズマ感染が多い。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

今週もアデノウイルス感染症多くみられます(咽頭結膜熱は2例 5歳女、9歳男)。解熱後に結膜炎を認める例もあります。

ヘルパンギーナ、手足口病 数例認められました。

その他水痘、流行性耳下腺炎散発

嘔吐下痢を主訴に受診される症例増加しています。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

ムンプスが續いています。

【春日井市 春日井市民病院】

ムンプス、水痘つづいています。

胃腸かぜ多発

手足口病が1例

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

今週は感染性胃腸炎が多くみられました。

【春日井市 かちがわ北病院】

ウイルス性嘔吐症多し。

インフルエンザ増加なし。

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザはすべてB型です。

【小牧市 志水こどもクリニック】

感染性胃腸炎が多くみられます。

マイコプラズマ肺炎が目立つようになりました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

ここ数週 手足口病 小流行

【美浜町 愛知県厚生連知多厚生病院】
胃腸炎、ムンプス流行中です。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

2歳男 病原大腸菌O1
3歳女2名 病原大腸菌O18
3歳男 エスプラインインフルエンザA/B
(A+)
【豊田市 星が丘たなかこどもクリニック】
0歳と3歳の兄弟 アデノウイルス(+)
の結膜炎
3歳男 病原性大腸菌O1
8歳男 病原性大腸菌O18
インフルエンザはいません。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
4歳女 アデノウイルス(+)
8ヵ月男 病原性大腸菌O153 VT(-)
1歳女 病原性大腸菌O25 VT(-)
2歳女 病原性大腸菌O25 VT(-)
【岡崎市 にいのみ小児科】
1歳男 病原大腸菌O8
5歳女 マイコプラズマ肺炎
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
園児を中心に嘔吐症が目立ちます
【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザ総検体数 24 件中B型1件陽性
【安城市 愛知県厚生連安城更生病院】
感染性胃腸炎 98名
中耳炎多数
【知立市 宮谷クリニック】
感染性胃腸炎が急増
【西尾市 やすい小児科】
1歳女 アデノウイルス感染症
3ヵ月男、1歳男 急性細気管支炎(RSウイルス陽性)
2歳女、5歳女、10歳女 マイコプラズマ肺炎
3歳女 病原性大腸菌O6 VT(-)
【幸田町 とみた小児科】
マイコプラズマ肺炎 0歳女
感染性胃腸炎、手足口病、ムンプスが流行しています。
【三好町 三好町民病院】

東三河地区

感染性胃腸炎流行中
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
カンピロバクター腸炎が小学生で3名ありました。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
3歳男、1歳男、2歳女、1歳女2名の計5名
マイコプラズマ肺炎
4歳女 ヘルペス歯肉口内炎
【豊橋市 野村小児科】

インフルエンザA陽性
気管支炎合併し入院
マイコプラズマ肺炎も数名
【豊川市 豊川市民病院】
インフルエンザB 10歳女
感冒性胃腸炎が目立つ(嘔吐、下痢、発熱を伴う)
【田原市 かわせ小児科】

一～三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

発生報告なし

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

後天性免疫不全症候群 1例

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-7>)

梅毒 2例 (1例は48週報の再掲)

(早期顕症 期2例、推定感染地域:国内2例、推定感染経路:性的接触2例)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-11>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

毎日の雑用に追いまわられています内に師走を迎えてしまいました。書類整理、年賀状書き、忘年会、冬休みの宿題などなど、長期展望なしの、まさに「その日暮らし」です。いつも貴重な情報を有難うございます。11月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはクル - プ症候群、急性気管支炎、肺炎など気道感染症が多く重症例の入院が増加、ウイルス性胃腸炎も増加傾向でムンプスは減少しているが水痘が散発的に発生、無菌性髄膜炎の入院が散発的にみられる、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザはまだないが、入院患者にアデノウイルス感染症とRSウイルス感染症が目立ち、先月とくらべると川崎病が少し多い、千種区今枝先生からは嘔吐だけの感染性胃腸炎（軽症）が保育園でぼつぼつあり、38 - 39 の発熱と咽頭痛の感冒症候群がぼつぼつあり、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎 3 名（カンピロバクタ - 、病原性大腸菌 O1, O125）、A 群溶連菌感染症 2 名、手足口病 2 名、ムンプス 1 名、ロタウイルス腸炎が一名入院、マイコプラズマを含む肺炎が 7 - 8 名入院、大同病院水野先生からはRSウイルス陽性の気管支炎大流行（近年になく多く、要入院例が多い）、溶連菌感染症、ムンプス、水痘も目立ち、手足口病が保育園単位で流行、ウイルス性腸炎（嘔吐が中心で下痢は少ない）の入院も目立つ、とのお手紙であした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性炎胃腸炎（カンピロバクタ - 腸炎 7 例を含む）がやや多く、A 群溶連菌感染症、手足口病、ムンプスがそれぞれ散発中、B 型インフルエンザウイルス感染症 2 例、江南市昭和病院小児科からはA 群溶連菌感染症と嘔吐を主訴とする感染性炎胃腸炎が目立ち、RSウイルス感染症の入院多数、アデノウイルス感染症の入院例あり、ロタウイルス胃腸炎の入院 1 例あり、常滑市民病院上田先生からは突発性発疹、細菌性及びウイルス性気管支炎が目立ち、感染性炎腸炎（サルモネラによる入院あり）、マイコプラズマ肺炎、RSウイルスによる細気管支炎の入院も目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは外来では咳と熱で受診、CRP 高い子が増加、RSウイルス感染症、肺炎の入院あり、刈谷市田和先生からは感染性炎胃腸炎で嘔吐下痢症が少し目立つ、碧南市永井先生からは手足口病がみられ、幼児を中心に嘔吐を主症状とする胃腸炎が目立つ、豊橋市からは感染性炎胃腸炎、溶連菌感染症、ウイルス性気管支炎などが目立つ（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

2004 年 11 月 5 日（79 巻 45 号） <http://www.who.int/wer/2004/wer7945/en/>

コレラ。セネガル：セネガル保健省は 04 年 10 月 5 - 28 日に 128 例（死亡 2）のコレラ発生を報告。発生は首都ダカ - ル市。エルト - ル型。保健省はコレラ対策委員会を組織し総合的な活動（担当者の研修と住民教育）を女性と小児対策を重点に実施し、衛生状態改善が進められている。

世界のポリオ：ジュネ - ブ、WHO本部でポリオ根絶の特別委員会が 04 年 9 月 21 - 22 日開催。勧告は（1）ポリオ野生株流行根絶の方法論、（2）野生株流行根絶後のポリオ生ワクチン（OPV）中止の方法論、に重点がおかれている。

（1）野生株の流行根絶に関しては 04 年に緊急課題として注目されたが 05 年前半には対策実施をさらに徹底することが勧告された。アジア地区では OPV 普及で野生株伝播を中断する。アフリカ地区では 05 年には 4 ~ 6 回の AIDs（Additional Immunization Days, 全国一斉接種以外に地域単位で集団接種）実施後に全国一斉接種日（National Immunization Days, NIDs）を各国共通で同一時期に実施。西・中央アフリカとソマリア地区のサーベイランスの質の向上、発生地区の分類：流行常在地区（現在はアフガニスタン、エジプト、インド、ニジェ - ル、ナイジェリア、パキスタン）、再流行地区（輸入例発生後 6 ヶ月以上定着：ブルキナファソ、チャド、象牙海岸、ス - ダン）、輸入地区（輸入例発生後 6 ヶ月未満）に分類する。AIDsの重要性を強調する。国際間伝播の監視強化。

（2）OPV中止に関しては OPV 関連急性弛緩性麻痺例の発生と OPV 取扱いの問題があり、最後の野生株陽性例発生後 3 年以上経過してから実施。ポリオウイルス検査機関や OPV 製造施設に対するウイルス取扱い注意の徹底。サーベイランス継続、強化。OPV 保管、廃棄処理の安全性などが重要で、再発生の緊急対策確立とともに今回の勧告がされている。

10 月 29 日 - 11 月 4 日届出。コレラ：ブルンジ、セネガル、タンザニア、ドイツ（輸入例）、黄熱：ブルキナファソ。

2004 年 11 月 12 日（79 巻 46 号） <http://www.who.int/wer/2004/wer7946/en/>

新生児破傷風根絶。ルワンダ：04 年 5 月、ルワンダ保健省は WHO、ユニセフの協力で地域レベルの新生児破傷風（NT）調査を実施した（ルワンダ = 中央アフリカに位置。人口約 800 万、年出生約 35 万人。83% が郡部居住）。保健省への届出では、同国における NT 死亡数は 2000 年 5 例、01 年 18 例、02 年 18 例、03 年ゼロである。清潔な出産頻度は州によって差があり、都市部と郡部で差が大きい。過去 5 年間の出産状況は全国では 26.5% が施設で出産（州別で 12 - 36%、首都キガリで 71%）、有資格助産婦による出産は全国で 31%（郡部で 25%）、清潔な出産は州によって 16 - 100%、有資格助産婦による場合 75%。妊婦に対する破傷風トキソイド 2 回以上の接種率は今回の調査では 03 年で 76.3%（61 - 86%）であった。OPV 調査と同時に実施、4 地区の詳細な一覧表あり。

ポリオ。03 - 04 年の世界各国の急性弛緩性麻痺（AFP）とポリオ患者の届出数。ポリオ患者数、AFP 患者数、適正なウイルス検査材料採集数の国別一覧表。04 年 1 月 - 10 月 26 日の WHO 本部への届出で目立つのは野生株陽性のポリオ確定数がナイジェリア 650 例、インド 74 例、パキスタン 36 例、ニジェ - ル 20 例、中央アフリカとチャドが各 19 例、ス - ダン 17 例であった。

愛知県感染症情報

2004年第1週～第49週(平成15年12月29日～平成16年12月5日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	419	37,764	2,901	8,731	37,258	10,798	2,274	2,760	6,069	145	135	7,164	60	9,790	29	1,511	15	24	277	0	0
愛知県 総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	345	29,516	2,227	5,897	26,071	8,705	1,873	2,143	4,815	130	69	5,534	58	7,802	20	1,188	15	24	275	0	0
名古屋	70	70	11	14	1	74	8,248	674	2,834	11,187	2,093	401	617	1,254	15	66	1,630	2	1,988	9	323			2		
尾張東部	9	9	2	3	1	68	1,860	203	719	1,533	554	67	216	312	11	5	485	7	370	4	29			65		
海部津島	7	7	2	2	1	1	2,036	107	205	2,525	559	39	72	170	6		198		563		83		6	55		
尾張中部	4	4	1	1			1,006	25	98	991	196	20	103	75	2	176		120		45						
尾張西部	16	12	3	4	1	11	2,133	242	521	2,855	692	349	101	465	3	2	308	3	710		54	1		1		
尾張北部	9	9	2	3	1	24	2,848	308	677	1,723	959	103	266	455	12	6	449	3	824		58	3	15	2		
	6	6	1	2		44	1,115	93	680	2,289	740	62	112	394	6	3	353	2	482		64					
知多半島	6	6	1	2	1	7	1,061	110	308	787	411	84	156	240	4	2	162	3	484	2	9			5		
	7	7	2	2		31	1,706	317	296	1,959	687	134	240	361	1	1	305		758	3	14					
西三河南部	11	7	2	2	1	6	1,946	51	484	659	868	248	142	540	9	5	465	4	554	2	61					
	11	11	2	4	1	18	3,209	163	492	1,495	731	272	170	458	7	4	434	7	1,070	1	90			18		
	5	5	1	2	1	6	864	33	205	937	320	121	124	226		1	201	7	459		48					
西三河北部	8	8	2	3	1	97	2,977	144	355	2,925	690	142	166	345	63	37	530	10	834		495	2	1	54		
	3	3		1		2	414	39	86	526	144	37	59	65	1		66		79							
東三河南部	12	8	2	4	1	8	4,205	94	517	3,215	515	142	65	403	4		703	11	188	2	90	8		45		
	9	8	1	2	1	22	1,973	289	250	1,629	596	44	147	284	3	1	690	1	270	6	48	1	2	30		
東三河北部	2	2			1		163	9	4	23	43	9	4	22			9		37							

愛知県感染症情報

2004年第1週～第49週(平成15年12月29日～平成16年12月5日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	345	29,516	2,227	5,897	26,071	8,705	1,873	2,143	4,815	130	69	5,534	58	7,802	20	1,188	15	24	275	0	0
～6ヶ月	119	277	8	17	343	237	27	8	391	36		41		3		13					
～12ヶ月	96	618	60	30	1,619	567	96	46	2,749	17	5	370	11	48		15					
0歳																	5	3	3		
1歳	77	2,095	321	150	3,706	1,625	416	111	1,533	6	10	1,511	16	388	2	62			24		
2歳	21	1,948	348	277	2,835	1,443	340	146	114	2	7	1,116	7	652		42	3		20		
3歳	17	2,119	409	639	2,736	1,670	299	232	14	4	2	1,016	2	1,186	1	54		1	32		
4歳	6	2,530	372	1,138	2,581	1,480	280	310	5	3	5	726	6	1,582	1	57		1	29		
5歳	7	1,741	286	1,152	2,081	816	187	412		3	1	378	3	1,509	1	55					
6歳	2	1,347	119	812	1,441	378	80	308	2	6		170	2	837		30					
7歳		1,114	95	521	1,125	175	56	197	2	1	3	89	2	490		19					
8歳		970	51	311	825	99	21	141	1	2		34	1	351		11					
9歳		1,057	45	220	757	50	17	92	1	1	1	29	1	236		6					
5歳～9歳																		3	75		
10歳～14歳		4,278	54	335	1,706	85	28	92	2	1	2	35	3	307		31		4	47		
15歳～19歳		1,952	4	42	565	13	2	3			2	4	2	34		21			4		
20歳～			55	253	3,751	67	24	45	1	48	31	15	2	179			7				
20歳～29歳		2,468													2	161		5	4		
30歳～39歳		2,414													5	283		5	15		
40歳～49歳		1,053													2	78			8		
50歳～59歳		626													3	93		1	4		
60歳～69歳		457													2	96			6		
70歳～															1	61					
70歳～79歳		267																	1		
80歳以上		185																1	3		